カトリック　三軒茶屋教会

おとずれ

2015年12月25日発行　第60巻 第8号

クリスマス号

ミサの式次第変更（4）

主任司祭 ミカエル 湯澤民夫 神父

ミサのやり方が変わってから、色々と戸惑うことがある。シスター方の様々な修道院の聖堂でミサをすると、祭壇や聖櫃などの位置、そして、聖堂の大きさがそれぞれ異なるからである。祭壇の前で深く礼をして、聖櫃に深く礼をする。それから、祭壇に両手を触れて深々と礼をする。たとえば、聖櫃が祭壇の真後ろに在り、その間の間隔があまりない時、聖櫃への礼がかなりぎこちなくなる。しかし、だからこそ、聖櫃の存在を意識させられる。もっとも、ごく自然な習慣になっていると思うが、何もなくても、聖櫃の前を通過するときは、必ず聖櫃に向かって礼をする必要がある。

しかし、意識させられるのは、聖櫃の存在というより、御聖体の現存ではないかと思う。神様の言葉が中心となる御言葉の祭儀では、朗読台が「神のことばの食卓」と呼ばれている。また、後半の感謝の祭儀では、当然祭壇が「ご聖体の食卓」となる。つまり、ミサが始まると、ミサに現存する神、そして、キリストが中心となっているから、たとえ聖櫃の前を通っても、礼をする必要はない。逆に考えると、ミサの始まる前までと後からでは、聖櫃に現存するイエス・キリストが意識されるのである。

ミサ典礼書の総則に基づく変更が発効したのは、今年の待降節からだが、その一年前に、『日本におけるミサ中の聖体拝領の方法に関する指針』が発効した。その二か月後に、『聖体授与の臨時の奉仕者に関する手引き』が出された。教会がかなりご聖体とその拝領について意識していることを感じさせる。前の教皇とその前の教皇が、ご聖体についていくつかの文書を出していることに関係しているのかもしれない。

ところで、私たちは、御聖体について、どのように捉えているだろうか。聖フランシスコは、私たちが、この世で肉体的に触れることができるイエス様は、御聖体しかない、と述べている。確かに形色はパンかもしれないが、キリスト御自身であり、イエス様の体そのものなのだ。だから、今、もし五感で感じるように触れることができるとしたら、御聖体しかない。

クリスマスを前にして、聖体拝領前にどう案内したらよいか、今年も色々と考えた。これまで、信徒でない人が間違ってご聖体を受けないように、祝福を受けるよう促し、また、その仕方を案内してきたこともある。それもよいかも知れない。しかし、御聖体を受けることを信徒にも意識させるには、不十分であろう。そこで、今年は、「カトリックで洗礼を受けた方で、聖体拝領を望む人は、前に出てください」ということにした。自分はカトリックで洗礼を受けたと意識し、「キリストの御体」と言われて、「そうです（アーメン）」と信仰宣言して、キリスト御自身を受け入れてもらいたいと思うからである。

待降節黙想会要旨報告

信仰養成委員会

日 に ち　平成 27 年 11 月 29 日
指導司祭　カトリック中央協議会　事務局長　宮下良平神父様
テ ー マ　「人と人とが一緒に生きる社会や生活からキリストを学ぶ」

1.　主日ミサ説教
・2000 年(大聖年)ワールドユースデーに参加したあるメンバーの話。
幼児洗礼を受け、教会で育ったある男性が、自分は何をやるのか、何をやればいいのか悩んでいた頃、ワールドユースデーに参加。貴重な体験をしたものの目標が見つからず、その後 1 年ほど世界を回ってみた。その後、悶々とした状況の中、30 歳で看護師になりたいと思って、実際に看護師になったユースデー参加者(この人を彼は“師匠”と呼ぶ)のことを耳にし、自分の年齢(28 歳)と照らし合せ、まだ遅くはないと気付き、一念発起して通信大学で資格を取り、今は中学校の先生になっている。その男性のスピーチがあり、「あれから 15 年が経ち、自分がこのメンバーとのつながりの中にいることを実感できたのも、原点にはワールドユースデーがあったから」と言っていた。

・ワールドユースデーというより、洗礼を受けたこと、教会で育ったこと、それらをきっかけとして大きなイベントに参加できたということが、信仰の「つながり」を意識できたということであろう。

・ルカの福音には、“いつも目を覚ましていなさい”とある。大切なことは、神様とのつながりの中でどう今を生きるか、どう見つめるかということ。だが、これが一番難しく、今、目の前にあることから抜けられない。だから、いろいろと準備をし、いろいろな用意をするのである。イエス様が再び来られることを我々は知っているし、その時こそ救われると信じている。

・日曜日に教会に来ることは、今の社会からすれば異常なことだと思うが、皆さんは来ている。時間が作れる人は教会に来ればいいんです。ミサは、希望が与えられ、喜びが与えられ、救いのしるしが与えられるから来るのです。

・今日、教会は典礼歴の新年を迎えている。新年とは切り替わるということ。
今日から始まる待降節。キリストがこの世に来られるのを待つための待降節。待つとは何かということを常に問い返す時期。
そうすることで救いへとつながっている。そうすることが日常の中で希望を持つ大きな道標を与えられる。

・今日ここにあるろうそくは 1 本ずつ増えていくが、目に見える形で我々の光が増えていくことを体験し、体験しながらキリストの再臨を待ち望む。そのことを大切にしていきたい。

２．第一講話
・今日からミサが変わる。いろいろな教会で、立つとか座るとか心配していたが、
そのような中で衣替えした。三軒茶屋教会のこれを見たときに、この教会は信仰に生きる人たちが多いなと思った。信仰というのは、自分勝手の信仰ではない。与えられている信仰、気付かされている信仰、キリストの教会に仕える信仰です。
・12 月 8 日から“いつくしみの特別聖年”が始まる。教皇様は、“いつくしみ”を大切にしている。日本語では“いつくしみ”と“あわれみ”の受け取り方の違いはあるが、これから 1 年、カトリック教会は“神のいつくしみに感謝し、神のいつくしみを証しして”過ごすことになる。

・『キリスト・父のいつくしみのみ顔』（いつくしみの特別聖年公布の大勅書）の記述から一部を朗読。

「神のいつくしみとは、抽象的な概念ではなく～」－大勅書１２ページ－

「イエスは、いつくしみは御父のわざであるだけでなく～」－大勅書１６ページ－　（紙面の都合上、全文を掲載できないことをおゆるしください。）

これから、“いつくしみ”を特別に考える１年になるが、これは、いいチャンスと思う。
今回の特別聖年は、我々の原点、キリスト、神は、どういう方かという我々を導く
大きなキーワード、大きなしるしになる可能性があると思う。

・今年、戦後７０年だが、８月に正義と平和協議会担当司教が来日し、６日、９日と広島・長崎を訪問したが、広島は若いころ訪問した時と違う感じがした。当時は、怒り、憤り、憎しみの発散というイメージだったが、今回は、祈りとゆるしと平和に向かうという大きな動きを感じた。他の訪問の人々も同様に感じているとの元広島司教様の話を伺えた。長崎は、祈りとゆるしのイメージが続いていて不変であり、全世界へと向かう願いは普遍であった。

・安保法案が９月成立した。国会前では集会が大規模に行われたが、成立前の一週間全くの個人として集会に参加した。そこには、たくさんの老若男女が集まっており、とくに高齢者が多く、かつ夫婦連れが目立っていた。70 歳を超した年寄の多くの方々が、若者や孫たちに戦争をする国にしてはならないという「いてもたってもいられない」思いから、初めて自分で反対行動に参加したということを初めて会った隣の人たちと語り合っているのを耳にして、その方々の熱い思いを日に日に感じながら、その方々の思いと一緒になっていく体験をさせてもらった。
これは、一人ひとりの思いの重なりの体験であり、出来事を通した神とのつながりを思い起こさせられた。イエス様を知ることを思う時、いろいろなところにイエス様が生きているのだと思う。洗礼を受けたとか、受けていないとかではなく、キリスト・神の存在、特に神のいつくしみ、あわれみをいろいろなところで受けることができるのではないかと思う。

・アンパンマンの作者やなせたかしさんの生き様について紹介。
　詩「希望」の全文
　　一寸先は闇というが、一寸先は希望かもしれない。
　　人生というものは、思うようにはいきません。
　　基本的には哀別、離苦のさよならだけが人生ですが、パンドラの箱の最後に
　　希望が残されていたように、喜怒哀楽は繰り返す。
　　あんまりあっさり絶望して、あきらめない方がいい。
　　希望を捨ててしまって、せっかちに絶望するのはもったいない。
　　明けない夜はありません。

やなせ氏が 92 歳で出版した本「絶望の隣は希望です！」において、アンパンマン誕生の経緯、正義の考え方を紹介。

これを読んだ時、我々の信仰とか教会のこととかイエスを伝えることが、この文章の中にものすごく、いっぱい入っていると思う。
アンパンマンがかじられるというのは、正に“あの方”のこと。キリストはアンパンマンの気持ちなのです。やなせ氏はプロテスタントの信者さんだが、それを言わなくても分かる。アンパンマンが顔を人に食べさせて生きさせることは、キリストが 2000 年前に我々に行ったいつくしみ・あわれみそのもの。我々はそれそのものを受けて生きている。

・アンパンマンを出した時、残酷だと批評を受けたが、アンパンマンは自分を食べてもらうことは、嬉しいこと。だって、まずいパンだったら食べてもらえない。自分を食べさせることは自己犠牲だ。アンパンマンには、正義とは何か、傷付くことなしに正義は行えないというメッセージが込められている。

・では、キリストの御体は甘いですか？美味しいですか？　これは私たちが問われている大切なポイント。
聖体拝領では司祭の「キリストの御体」に皆さんは、「アーメン」で答えます。これは、信仰告白であり、本質的なものを自分が持っているかを問われていること。

・本質的なものとは、イエス様の体をいただくことはものすごいことだという体験を持っているか、また、持っている体験を体で表現しているかということ。それは、雨の日も、風の日も、雪の日も、また、大地震があろうとなかろうと教会に行く。その姿、そのことを、自分が生きてきたあかしなんだという思いで発散しているか、人がそれを感じるか、子、孫がそれを感じるかということ。
若い世代が教会に来ないという現実はあるが、それでも我々はイエス様からいただく体から出る恵み・喜びを発散し、伝えて行かなければならない。
次代の担い手が少なくなっていく社会だが、一人ひとりが喜びを伝えていく使命は無くならない。

・しるしにとらわれることなく、本当の中心が何かをいつも思っていなくてはならない。中心はキリストであり、十字架であり、御体であることを大切にしなくてはならない。ごミサの中心は、祭壇であり、そこでイエス様がご聖体になってくれるのだから。聖堂や祈りの中心は、聖櫃で、それがふさわしいもの。
我々にとって中心というものをいつも考えていくこと、そのことで日常の中で養われていき、いろいろなものが信仰とか中心とは何かというものを教えてくれている。

３．第二講話

・映画「母と暮らせば」についてテレビで特集があった。
撮影に入る前、主役の俳優の「戦争を知らない。平和のことを教えられてきた。だから何を考えればいいのか」に対し、監督は、「想像してもらいたい。分からないだろうけど」と言って、撮影に当たって、丁寧に、丁寧に伝えて演じてもらったという。
撮影が終わって、主役俳優は「戦争を身近なものと考えられるようになった。すぐ近くで起こることなのだと思えるようになった」と。

・教会においても同じで、想像すること、丁寧に伝えていくこと、が大切なことと思うし、それしかないと思う。
キリストを信じるということは、聖書やみことばを通じて想像していること。想像させてくれる手助けも必要だが、我々にとって想像できるチャンスはどこにでもあると感じている。

想像するとは何か。丁寧に人を通して、丁寧にそのものを見ていく中に、キリストや聖書につなげられるチャンスがあり、それに気付くこと。

・中央協議会に勤務した当初、参考のために、とあるセミナーに参加し、若い講師の講義を受けたが、セミナーを終了して、講師が言っていることは聖書に書かれていることと同じだと気付かされた。ミッションは、何かを問わないと何をしているのか分からない。ミッションと現状のギャップを解決することが必要だ。
イスラエルにおける神と人とのギャップを埋めるために、神はキリストを派遣した。これが聖書に記されているのである。ギャップにも量的・質的なものそれぞれがあり、これも

記されている。
皆さんは、聖書や神のみことばを通して、自分たちが何をこれから生きていくのか、求めていくのか、そして、自分の家庭とか会社とか職場が起こしている問題の本質的なものは何なのか。これらの答えは聖書の中に書かれており、我々はそのことを見つけるチャンスがある。

・物事には特質というものがある一方、そこに流れている普遍性というものがある。
私たちが関わっている問題やギャップというものは、決して固有で特別なものとは限らず、他のところとつながっている。この感覚を持てるかがものすごく大きなポイントである。
私たちは、それぞれ問題（親のこと、子のこと、仕事のこと等々）を抱えており、
すぐに解決できるというものではないが、そのことについてある光というものが、イエスの生き方とか初代教会に対する人々が伝えた指導の中に見えてくる。これを活かすかどうかは我々一人ひとりにある。答えは誰かが与えてくれるものではなく、あくまで自分で探すもの。探すために神様は精霊というものを与えて、特別に我々に祈りと聖書のことばを

・スターバックスのミッションは、コーヒーを売ることではなく、「人々の心と活力と栄養を与えるブランドとして、世界で最も知られ、尊敬される企業になること」という
目標をかかげ、お客様が世の中のためになることを使命としている。
お客様がスターバックスで費やした時間だけ、世の中に価値を生み出したら、それこそがスターバックスの存在理由であると。

・スターバックスが、本当にそこまで考えているかどうかと思うところはあるが、では、教会はここまで考えているだろうか？　教会は、未だ特別な意識を持ち、祈りの所という意識があって、大切なオアシス運動(おはようございます。ありがとうございます。失礼します。すみません)がみられない。よその宗教・宗派を訪れるとすごい挨拶に出会うが、教会ではなかなか無い。教会のミッションの拡がりの無さとも思う。孫が来た時のような、心から喜んで迎え入れる行動はできないのだろうか。

・以前居た教会で、司教様の命を受けて幼稚園の園長をやることになったが、故あって苦労したことがある。その間、門に毎朝立って、子どもたちに挨拶をした。そこでの苦労は教会の人たちに支えられ何年か後に解決へと向かったが、大事なのは挨拶ということだと感じた。

・石川県和倉温泉加賀屋ホテルのミッション
前出スタバ岩田氏が役員会議に同ホテルを利用した際の取材から、加賀屋の担当仲居さんについて感動を覚えたという。加賀屋には「お客様に“できません”とは言わない」というシンプルで分かりやすいミッションだけ有り、何をすべきかは従業員に委ね、従業員が考え実行することによって、期待を越える感動をお客様に与えるらしい。
・イエス様は、弟子からも裏切られたが、けれど思っている以上のこと、復活という出来事を我々に与えてくれて、今がある。いろいろなところでキリストは生きている。それを気付かされるのがキリスト信者である。信者が考えるための手段は、教会と聖書が与えられていること、言わば道具が与えられていることである。活かすかどうかは皆さん次第だが、神様は、それを感じてくれと仰っている。

宮下神父様には、平易な言葉や平易な事例で、沢山のことをご指導いただきました。神父様の今後のご活躍を祈念し、オアシス運動の一節でお礼申し上げたく存じます。
ありがとうございました。

教皇フランシスコ

いつくしみの特別聖年のための祈り

いつくしみ深く　御父のように

いつくしみの特別聖年

自：2015 年 12 月 8 日（無原罪の聖マリア）

至：2016 年 11 月 20 日（王であるキリスト）

9月13日ピザパーティーをボーイスカウト・日曜学校・青年会で共同開催

9月13日(日)にピザパーティーをボーイスカウト・日曜学校・青年会で共同開催致しました。初めての試みではございましたが、50名の方に中庭でピザを楽しんで頂き、ボーイスカウトの皆様とも交流を深めることができたと感じております。会の最後には子供達と輪になって合唱を行いました。朝8時から約3時間ピザ窯に火入れをして下さったボーイスカウトの皆様、合唱をリードして下さった中高生リーダー&楽隊の皆様をはじめ、ご協力頂きました関係者の皆様にこの場をかりて厚く御礼申し上げます。(教会委員　茂木)

今年まず初回のトライアルということで、教会委員主導で企画をし、教会の日曜学校・中高生会・リーダー達とボーイスカウト・カブスカウト（以下BS/CS）の交流企画をピザパーティーという形で実施しました。
いくつかポイントがあります。
１.教会信徒とBS/CSが交流する・協働するイベントを増やしていきたい
もちろんバザーや普段の主日ミサでも同じ場にはいるのですが、「交流・協働」になっているのかというと、実態は残念ながらそこまで至ってないという思いがあり、守安団委員長をはじめBS/CSと教会が共同して企画することにしました。
２.教会からボーイスカウトの活動に貢献する場を作りたい
これは教会委員の中の思いとして強かったのですが、大掃除やクリスマスミサの際の駐車場整理、餅つき大会などBS/CSに教会がお願いすることばかりで、ぜんぜんお返しができていないなという思いがありました。今回もピザ釜の扱いなどはBSリーダーにお任せになってしまったのですが、BSリーダーからはCSの子供達がカトリックスカウトとして歌う聖歌の練習をしてほしいという要望があり、青年リーダー達の楽隊によって、少しはお役に立てたのではないかなと思っ

ています。
また、敬老会パーティーと同日開催とした背景としては、
３.敬老会で歌の奉仕をしてくれる日曜学校・リーダー達の待ち時間の有効活用
みなさんもご存知の通り、日曜学校の子供達は普段８時半のミサに預かり、その後１時間ほど勉強をしていますが、敬老会パーティーの時は出番まで２時間ほど待たなければなりません。また、楽器のできるリーダー達も敬老会パーティーに向けて集まってもらっていますが、この機会をあわせて CS の子供達の歌の練習をすることで、リーダー達の負担を少しでも抑えたいという狙いもあります。
一方で、敬老パーティーの厨房手伝いとかぶってしまうのでは、という懸念も聞かれましたが、ピザパーティーのほうは BS リーダーと男性の教会委員で概ね対応していますので、その点は問題にならないと考えています。
４.敬老会パーティーのためお休みとなる食堂の代わりとしての機能
食堂がお休みのときに開催すれば、より多くの信徒の方にも参加していただけるかなという狙いもありました。初回なので、十分周知ができなかった面もありますが、継続していくことで、認知されていくようにしていきたいと思います。
みなさまのご理解をいただき､同じ場所で活動している BS/CS や隣接の幼稚園との連携をさらに密接にしていくような取り組みを行っていきたいと思いますので、引き続きよろしくお願いいたします。（教会委員長　小野）

東京教区のこどものミサに参加して

田丸　淳

司教会議（シノドス）の期間中，2015 年 10 月 11 日午後，関口のカテドラルで行われた，こどものミサに与った。シノドスのテーマが『家庭』であることもあり，その期間中に，こどものミサが行われる事が印象的だった。東京教区中から子供達が集まり，カテドラルの席が，一通り埋まる程の人々が集った。三軒茶屋からは，こども，大人合わせ総勢２０名程が参加した。

今年のテーマは，「誰が一番偉いのか」。福音朗読は，そのテーマに関連する，マルコ 9:33-37 が読まれた。各教会のこどもたちが，それぞれの教会の侍者服を着て，侍者を務めた。殆どの侍者服は白が基調，三軒茶屋は，茶色の服のお陰もあり，遠くからでもよく見えた。典礼も，音楽も，こども向けで，よく準備され，新鮮だった。　三軒茶屋の我々は，中央通路の右側後尾辺りに，陣取った。前方と右側は，韓人教会の子らが座り，時々，韓流ドラマを見ているが如き錯覚に陥った。

祭壇には，今年のテーマである，「誰が一番偉いのか」の文言が掲示されていた。そして，その脇で，大司教が説教をした。一見，その構図が，問いと答えを為している様にも見える。岡田大司教は，聞き耳たてる人々を察知されたのか，緊張の面持ちを見せつつ，少しずつ話し始められた。

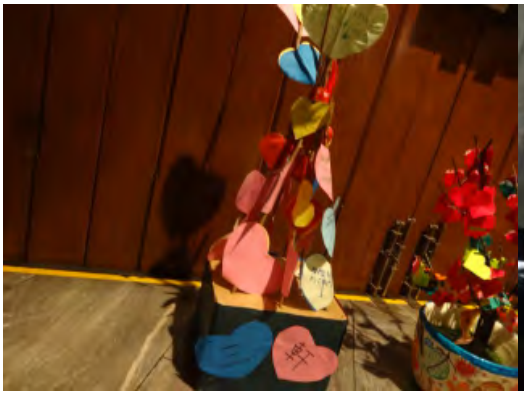
「私は，よく『偉い』ように言われる事が多い。偉い人というのは，沢山の部下を持ち，仕えられることが多いイメージがある。私は頼みごとをすることがあり，してもらえない時もある。そんな時，自分の頼み事をしてもらえるのは当然と，思っている自分に，気付く・・余り大きな声では言えませんが・・いや，大きな声で言っているのですが・・」

不謹慎にも，私は思わず，笑い転げ，韓人教会の子らに，じろりと見られた。その後，こどもの工作が続々と奉納された。工作のテーマは『ハート』。いじめがないよう，平和について，等の『祈り』が記されている。沢山の作品があって，奉納に時間がかかった。子供達の費やした時間を合わせると，どれほどか・・祭壇の周りに，こどもらの作品が並んだ。奉納では，「マリアの賛歌」を歌った。

『主よ，私はあなたのしもべ，御言葉通りになりますように・・』

ミサ後，リクリエーションの時間があったが，三軒茶屋の我々は，帰路についた。

家に帰った時，ちょうど，夕食の準備を開始する程の時間であった。



こよみ

１　２月

１２月２４日(木)　18:30 クリスマス聖劇
19:00 子どもと家族のミサ・21:00 夜半のミサ
23:00 真夜中のミサ
１２月２５日(金)　6:30 降誕祭　早朝のミサ・11:00 クリスマスミサ
１２月２６日(土)　聖ステファノ殉教者

１２月２７日(日)　聖家族　第１回・聖体奉仕者研修会 14:00～

１２月２８日(月)　幼子殉教者
１２月３１日(木)　聖シルベストロ１世教皇

１月

1月　１日(金)　神の母聖マリア・世界平和の日　ミサ 0:00・11:00
1月　３日(日)　主の公現
1月１０日(日)　主の洗礼　新年会・新成人祝賀会　馬小屋徹収
1月１３日(水)　聖ヒラリオ司教教会博士
1月１７日(日)　年間第 2 主日　第 2 回・聖体奉仕者研修会 14:00～
1月１８日(月)　キリスト教祈祷一致週間２５日迄
1月２１日(木)　聖アグネスおとめ殉教者
1月２２日(金)　聖ビンセンチオ助祭殉教者
1月２４日(日)　年間第 3 主日
1月２５日(月)　聖パウロの回心
1月２６日(火)　聖テモテ、聖テトス司教
1月２８日(木)　聖トマス・アクィナス司祭教会博士
1月３１日(日)　年間第 4 主日　第 3 回・聖体奉仕者研修会 14:00～
ボーイスカウト新年の餅つき

２月

2月　２日(火)　主の奉献
2月　４日(木)　聖アンドレア・コルシーニ司教
2月　５日(金)　日本 26 聖人殉教者
2月　７日(日)　年間第 5 主日　第 4 回・聖体奉仕者研修会 14:00～

あとがき

◇　降誕祭おめでとうございます。今年もあっという間に、経過しました。

◇　「いつくしみの特別聖年」は、2015 年 12 月 8 日～2016 年 11 月 20 日スタートしました。サンピエトロの「聖なる扉」が開かれました。

◇　今号の「おとずれ」には、湯澤神父様は「ミサ式次第の変更(4)」と題しての巻頭言を掲載しています。ミサ中御聖体拝領についての意義について詳しく記されています。

◇　待降節の黙想会は、カトリック中央協議会の宮下良平師をお招きして行われました。ミサ中・第一説教・第二説教では、とても判りやすいお話しを頂きました。黙想会の内容については、詳細の記事を掲載しております。

◇　ピザパーティー記事と、東京カテドラルでの「東京教区子どもミサ」記事を掲載しています。

◇　次号「新年号」(第 61 巻 第 1 号)は、2016 年 2 月 7 日発行です。

『おとずれ』第 60 巻 第 8 号 2015(平成 27)12 月 25 日発行
発　　行　カトリック三軒茶屋教会
編集・印刷　カトリック三軒茶屋教会･広報委員会
主任司祭：ミカエル 湯 澤 民 夫
〒154-0024　世田谷区三軒茶屋 2－51－32
TEL 3421-1605　FAX 3421-9788
http://home.f05.itscom.net/sancha/index.htm
sancha-catholic0629@leaf.ocn.ne.jp